島根県設計・測量・調査等業務成績評定要領

(平成24年1月)

島根県総務部島根県農林水産部島根県土木部

島根県設計・測量・調査等業務成績評定要領

(日的)

第1 この要領は、島根県総務部営繕課、農林水産部(隠岐支庁農林局及び水産局を含む) 及び土木部(隠岐支庁県土整備局を含む)の所掌する設計・測量・調査等業務の成績評 定(以下「評定」という)に必要な事項を定め、厳正かつ的確な評定の実施を図り、も って建設コンサルタント等及び技術者の適正な選定並びに指導育成に資することを目 的とする。

(評定の対象)

- 第2 この要領において評定の対象となる設計・測量・調査等業務(以下「委託業務等」という)は、原則として1業務の委託金額が100万円以上の委託業務等のうち、次の各号に掲げるものとする。ただし、維持管理業務、災害調査業務、緊急に必要な業務、その他特殊な業務等で、当該委託業務等を所掌する総務部、農林水産部若しくは土木部の課長(室長)(以下「課長(室長)」という。)又は地方機関の長(以下「所長等」という。)が必要でないと認めたものについては、評定を省略することができる。
 - (イ) 「島根県設計・測量・調査等業務共通仕様書」(平成17年4月1日施行)に定める委託業務等
 - (ロ) 建築に関する設計業務又は診断業務(以下「建築設計業務等」という。)

(評定者)

第3 委託業務等の評定者(以下「評定者」という)は、課長(室長)又は所長等が指定 した完了確認検査員、総括監督員及び主任監督員又は監督員とする。

(評定の時期)

第4 評定者は、委託業務等が完了したとき、それぞれ評定を行う。

(評定の方法)

- 第5 評定は、委託業務等ごと、評定者ごとに独立して的確かつ公正に行う。
 - 2. 評定は、委託した業務の主たる内容により「地質調査・測量・調査業務成績考査表」 (様式第1号)、「設計業務(概略〔予備〕設計)成績考査表」(様式第1号)、「設 計業務(詳細設計)成績考査表」(様式第1号)のいずれか一つで行う。
 - 3. 評定方法は別紙「考査基準」により行う。
 - 4. 前2項の規定にかかわらず、営繕課及び建築住宅課が所掌する建築設計業務等の評定は、別に定める建築設計等委託業務成績評定基準による。(第6について同じ。)

(評定の報告)

第6 評定者は、第5の「業務成績考査表」(様式第3号)の結果を「委託業務成績評定表」(様式第2号)に記載し、完了確認検査調書に添付して課長(室長)又は所長等に報告する。

(評定結果の通知)

第7 評定結果は、島根県委託業務成績評定点通知公表実施要領により、速やかに通知する。

(評定の修正)

- 第8 課長(室長)又は所長等は、第7の通知をした後、当該評定を修正する必要があると認められる場合は、修正しなければならない。
 - 2. 前項の修正を行ったときは、遅滞なく、その結果を当該業務の受託者に通知する。

(説明請求等)

- 第9 第7又は第8による通知を受けた者は、通知を受けた日から14日(休日を含む) 以内に書面により通知をした者に対して評定の内容について説明を求めることができ る。
 - 2. 当該委託業務等を所掌する課長(室長)又は所長等は、前項による説明を求められたときは、書面により回答する。
 - 3. 前2項の事項については、第7又は第8の通知において明らかにする。

(評定結果の公表)

第10 評定結果は、島根県委託業務成績評定点通知公表実施要領により、速やかに公表する。

(島根県委託業務成績評定点通知公表実施要領)

第11 島根県委託業務成績評定点通知公表実施要領については、別紙1による。

(附則)

- この要領は、平成18年4月1日から施行する。
- この要領は、平成20年4月1日から施行する。
- この要領は、平成20年6月1日から施行する。
- この要領は、平成24年1月1日から施行する。

島根県委託業務成績評定点通知公表実施要領

(目的)

第1 この要領は、島根県総務部営繕課、農林水産部(隠岐支庁農林局及び水産局を含む)及び土木部(隠岐支庁県土整備局を含む)の所掌する設計・測量・調査等業務(以下「委託業務等」という)の成績評定点の通知及び公表に関する事項を定めることにより、委託業務等に関する技術水準の向上に資するとともに、品質の確保を図ることを目的とする。

(対象委託業務等)

第2 評定点の通知及び公表の対象とする委託業務等は、島根県設計・測量・調査等業務成績評定要領(以下「評定要領」という)第2に規定された評定の対象委託業務等とする。

(評定点の通知及び公表)

- 第3 課長(室長)又は所長等は、評定者から完了確認検査の業務成績評定表が提出されたときは、遅滞なく受託者に対して委託業務成績評定通知書(様式第4号)に項目別評定点表(様式第5号)を添付して評定結果を通知する。ただし、営繕課及び建築住宅課が所掌する建築設計業務等に係る様式については、別に定める。
- 2 通知した委託業務成績評定通知書(様式第4号)の写しに項目別評定点表(様式第5号の2)を添付して、閲覧による方法により速やかに公表する。ただし、建築設計業務等に係る様式については、別に定める。
 - なお、閲覧に供する期間は、業務完了年度を含め2年度とする。
- 3 評定要領第8に基づき評定を修正した場合についても同様とする。

(説明請求)

第4 第3の通知を受けた者は、通知を受けた日から14日(休日を含む)以内に書面により、当該委託業務等を所掌する課長(室長)又は所長等に評定点について説明を求めることができる。

(説明請求の提出)

第5 第4の書面の提出先は、当該委託業務等を所掌する課長(室長)又は所長等とする。

(説明請求に対する回答)

- 第6 当該委託業務等を所掌する課長(室長)又は所長等は、評定点の通知を受けた 受託者から評定点についての説明を求められた場合、速やかに書面により回答する。
 - 2 当該委託業務等を所掌する課長(室長)又は所長等は、前項の回答をする場合、 島根県委託業務成績評定評価委員会に意見を求めることができる。
 - 3 前項の島根県委託業務成績評定評価委員会は、「島根県工事成績評定要領」(平成17年3月3日付け技第700号)に基づき設置された島根県工事成績評定評価委員会と兼ねることができる。
 - 4 島根県工事成績評定要領別紙5の「島根県工事成績評定点通知実施要領」の別 紙6「島根県工事成績評定評価委員会規程」における「工事」を「工事又は委託 業務等」に読み替えることができる。

附則

- この要領は、平成18年4月1日から施行する。
- この要領は、平成20年6月1日から施行する。
- この要領は、平成24年1月1日から施行する。

考 査 基 準

1. 評定は、各評定者が順次実施し1枚の成績考査表で完成させる。(各評定者が 別々に作成した評定点を合算しても、適正な総合評定点は算出できない)

ただし、総合評定は、完了確認検査員が行う。

なお、評定者ごとの評価の入力は、別紙「委託業務成績評定表」記入マニュアルによる。

2. 総合評定欄の「評定点の加重平均点」とは、小数点以下第1位を四捨五入して 整数止めとした100点満点への換算である。

以下、考査基準3,4の総合評定欄の減点は、100点満点に換算した減点とし、 整数止めとする。

3. 総合評定欄の「事故等による減点」は、当該業務遂行中に受託者に起因する事故等が発生し指名停止等の措置を行った場合に、当該業務の総合評定点(100点満点換算)に対して、別表1を参考として-15点まで減点することができる。

(別表 1 受託者に起因する事故等が発生した場合の減点基準)

区分	口頭注意	文書注意	指名停止1ケ 月まで	指名停止が1 ケ月を超える
考査点	-3点	-5点	-10点	-15点

【適応事例】

- 入札前に提出した当該業務の技術提案書等が虚偽であった事実が判明した。
- ・発注者の承諾なしに当該業務に関する権利義務、成果物を第三者に譲渡又は承継、公開した。
- ・ 産業廃棄物処理法に違反する不法投棄、砂利採取法に違反する無許可採取等、関係法令に違 反する事実が判明した。
- 一括再委託、請負を行った。
- 打合せ協議または検査の実施にあたり、職務の執行を妨げた。
- ・ 当該業務において過積載等の道路交通法違反により、逮捕または送検等された。
- ・ 当該業務において安全管理の処分が不適切であったために、死傷者を生じさせた業務関係者事故、または重大な損害を与えた公衆災害を起こした。
- その他(理由:

4. 総合評定欄の「瑕疵修補又は損害賠償が実施された場合の減点」は、成果品に受託者の責任に起因する瑕疵が存在し、土木設計業務等委託契約書第39条のかし担保条項等に記載された手続きに従い瑕疵修補又は損害賠償が実施された場合に行うもので、別表2を参考として、20点まで減点することができる。

なお、この減点は、通常、検査評定時には判明していないため、当該事象が発生したとき所長等の承認を得て担当部所が遡って行うものとする。

又、当該欄には、「島根県設計・測量・調査等委託業務完了確認検査要領」の 第7に規定する業務の手直し請求を行った場合の減点を記載するものとする。

この減点は、別表3を参考として、-8点まで行うことができる。

(別表 2 瑕疵修補又は損害賠償が実施された場合の減点基準)

区分	瑕疵修補又は損害賠償の実施	受託者の故意又は重大な過失による瑕疵 修補又は損害賠償の実施
考査点	-10点	一20点

(別表 3 手直し請求)

区分	簡易な手直し業務を指示したとき	重大な手直し業務を指示したとき
考査点	-5点	-8点

- 5. 委託した業務が複数の業務にまたがる場合の「主たる業務」は、原則として以下 の優先順位により該当する考査表を選定し考査するものとする。
 - ① 建設コンサルタント業務
 - ●詳細設計 ❷概略(予備)設計
 - ②補償コンサルタント業務
 - ③地質調査業務
 - 4)測量業務
- 6. 委託する業務のなかには、高度な技術力をあまり必要としない単純なデータ処理業務や資料収集・整理業務も含まれる。このような単純調査業務は、「地質調査・測量・調査業務」の範疇とする。別表4は、単純調査業務の参考事例である。

(別表 4 参考事例)

部	門	内容	
各部門共通		単純なデータ収集、整理、処理業務	
		書類編集的な業務	
		文献及び資料収集業務	
		用地及び補償調査	
		工事記録等資料の分類・整理	

	工事図面集、写真集等の作成
河川、砂防及び海岸	水理、水門観測業務
	データ加工業務(降雨解析等)
	不等流計算等の計算業務(システム開発を除く)
道路	一般的な現地踏査
	一般的な交通量観測業務
トンネル	クラック等変状の計測調査
施工計画及び施工設備	施工関連資料の収集整理
情報	定期的なデータメンテナンス
	単純なデータ作成のみの業務
環境	大気汚染、水質汚濁、騒音、振動等調査・分析方
	法がJIS等で規定されている測定業務

7. 技術者の評定について

各技術者の評定点は、業務に対する評定点のうち以下の評価項目を抽出し、総合評定点について、8. の重み付けを考慮して付加する。

	評価項	目	管理技術者 又は 主任技術者 (注 1)	担当技術者	照査技術者
	提	案力、改善力	0	0	_
	業	務執行技術力	0	0	_
 専門技術力	施工時へ	概略設計,予備設計	0	0	_
守口技制力	の配慮 (注 3)	詳細設計	0	0	_
	コスト排	巴握能力 (注3)	0	0	_
	I	程管理能力	0	_	_
管理技術力	티	占質管理能力	0	_	0
	迅速性、	弾力性、調整能力	0	_	_
コミュニケーション力	説明力、プ	レセ゛ンテーション力、協調性	0	0	_
取組姿勢	責任感	、積極性、倫理観	0	0	_
	成果品の	品質	0	0	0

注) 1. 地質調査・測量・調査業務は主任技術者が該当する。

- 2. 「担当技術者」はそれぞれ3人までとする。
- 3.「施工時への配慮」及び「コスト把握能力」は、設計業務のみ評定の対象とする。

8. 総合評定点について

総合評定点を算出する際には、対象業務に応じて各評価項目ごとに以下の重み付けを 考慮する。

			地質調]査·測量	·調査業	務委託		設計	業務						
				技	術者評!	定		技	支術者評 別	ŧ					
	評価項目			評価項目		評価項目		業務評定	管理 又は 主任 (注1)	担当 (注 2)	照査	業務評定	管理	担当 (注 2)	照査
	提案力、	改善力	2	2	2	_	2	2	2	_					
	業務執行	厅技術力	4	4	4	_	4	4	4	_					
専門	施工時への配慮	概略設計 予備設計	_	_	_	_	1	1	1	_					
技術力	(注 3)	詳細設計	_	_	_	_	1	1	1	_					
	コスト把		_	_	_	_	1	1	1	_					
	工程管	工程管理能力		2	_	_	2	2	_	_					
管 理	品質管	品質管理能力		2	_	2	2	2	_	2					
技術力	迅速性、 調整		1	1	_	_	1	1	_	-					
コミュニケー ション力	説明力、プレセン				1	1	1	_	1	1	1	_			
取 組 姿 勢	責任感、	積極性 里観	2	2	2	_	2	2	2	-					
成果品の品質			7	7	4	1	8	8	5	1					
	合 計					21 (100%)	21 (100%)	13 (100%)	3 (100%)	24 (100%)	24 (100%)	16 (100%)	3 (100%)		

- 注) 1. 地質調査・測量・調査業務は主任技術者が該当する。
 - 2.「担当技術者」は3人までとする。
 - 3. 「施工時の配慮」及び「コスト把握能力」は、設計業務のみ評定の対象とする。

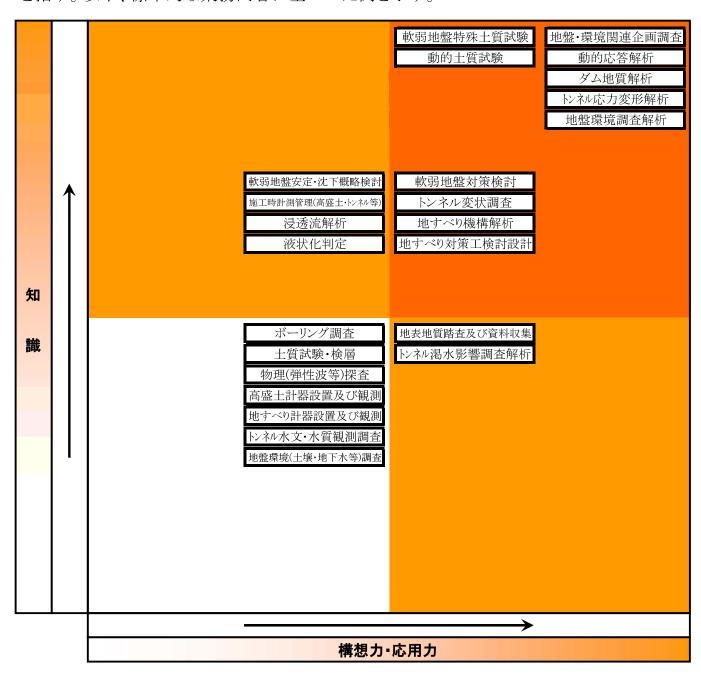
9. 総合評定点による評定基準は、別表5のとおりとする。

(別表 5 評定基準)

区分	優良	良好	普通	基準内
総合評定点	100~80点	79~73点	72~65点	64点~

参考:採点上の補足

採点表の評価細目で、"高度な技術レベル""難易度の高い業務"の項目があるが、これに関しては「設計・コンサルタント業務等入札契約問題検討委員会 中間とりまとめ」に示される「知識」の高い業務かつ/又は「構想力・応用力」の高い業務を指す。以下、標準的な業務内容に基づいた例を示す。



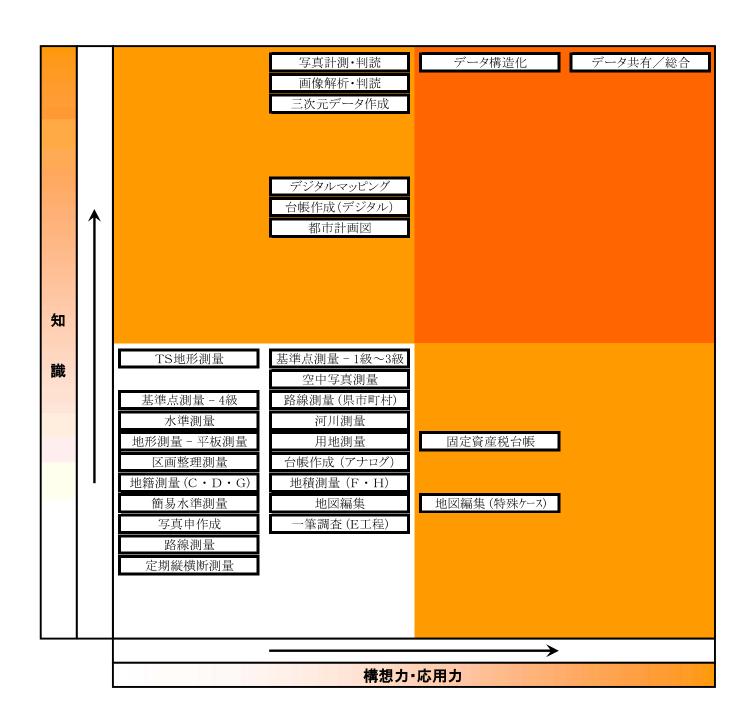


図 測量作業の例

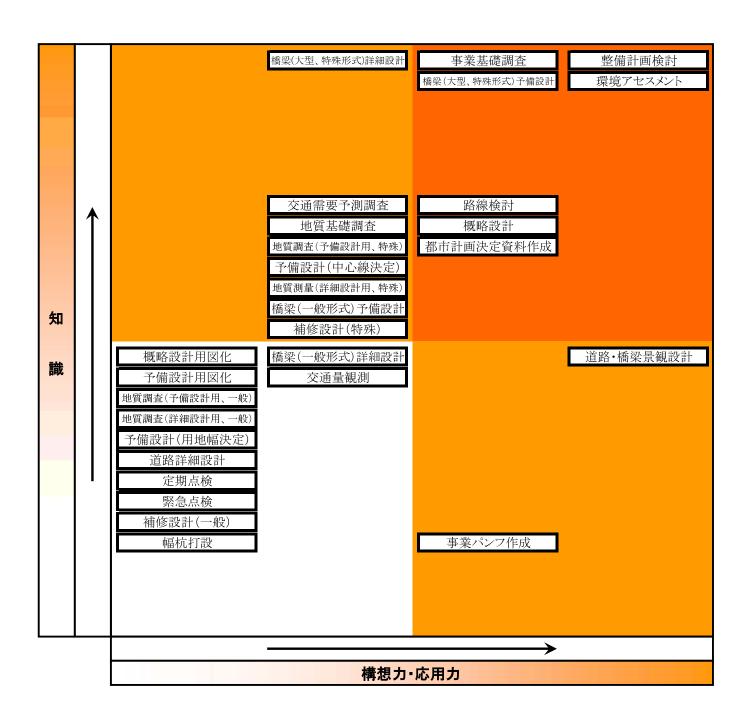


図 道路事業に係わる調査・計画・設計業務の例

		利水計算	堰設計A	高水流量検討A	河川整備基本方針
			水門設計	正常流量検討A	河川整備計画
			排水機場設計A	治水経済調査A	水理·土砂解析A
			河道計画A	環境管理基本計画	事業評価
			防災システムB	氾濫解析	総合治水対策
				利水計画	防災システムA
				河川情報システム	環境アセスメント
	\wedge	正常流量検討B	高水流量検討B	計画降雨検討	特殊構造物設計
		降雨解析A	低水流出解析		内水解析A
		内水解析B	河道特性検討		
		河道計画B	ハザードマップ		
		堰設計B	堤防•護岸設計A		
知			樋門•樋管設計A		
\ \h					
-4.		堤防•護岸設計B	治水経済調査B	河川環境整備	河川景観設計
識		樋門·樋管設計B	水理·土砂解析B		
		床止め設計	河川水辺環境調査		
			耐震調査		
			排水機場設計B		
		降雨解析B	点検調査	広報資料作成	水理計算プログラム開
		水文·水質観測			
		定期縦横断測量			
		河川台帳作成			
				\rightarrow	
			構想力・	応用力	

注:A, Bは同種の業務における難易度の違いを表し、Aは難易度が大であるもの。

地質調査・測量・調査			第1号)〔(主	主任)監督員)	用〕	業務名:	(1/4)
			得 点	率(B)	477.1		
評価項目	評価の視点	配点 (A)	優 標準	準 劣	得点 A×B	評 価 細 目	

)()) (130-47	カエク/ (工圧/皿目貝/	14.7			
	評価項目		評価の視点	配点 (A)	得点率(B) 優標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点 A×B	評 価 細 目		
			業務着手段階 における業務 特性等の考慮	20	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 評価細目チェック数=1⇒「0.8」 評価細目チェック数=2⇒「1.0」		・当該作業(業務)の仕様や発注者からの指示等を満たす提案がなされた。 ・当該作業(業務)の特性を考慮しつつ、新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に関する提案がなされた。注1)		
		相索力	業務遂行段階における提案	40	デエック数 評価細目fェック数=0⇒「0.6」 評価細目fェック数=1⇒「0.8」 評価細目fェック数=2⇒「1.0」		□・作業(業務)遂行段階で新たな視点からの提案がなされた。 □・関連する多面的な視点から検討された、あるいは高度な技術レベルに基づく提案がなされた。注1)		
		提案力 改善力 〔加点評価〕	業務遂行上 必要となる 課題の提案	20	デエック数 評価細目チェック数=0⇒「0, 6」 評価細目チェック数=1⇒「0, 8」 評価細目チェック数=2→「1, 0」		□ ・当該作業(業務)で不足する課題が抽出された。□ ・検討課題と共に今後実施すべき検討事項・方針等が提案された。		
					業務内容等 改善の提案	20	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 評価細目チェック数=1⇒「0.8」 評価細目チェック数=2⇒「1.0」		□ ・作業 (業務) の作業効率を向上させる提案が、自主的になされた。 □ ・作業 (業務) の内容・精度を向上させる提案が、自主的になされた。
			1 =1	100					
			小計	100	①				
プロセス評価	専門技術力		目的と内容の 理解	20	評価細目チェック数-0⇒[0.2] 評価細目チェック数-1⇒[0.4] 評価細目チェック数-2⇒[0.6] 評価細目チェック数-3⇒[0.8] 評価細目チェック数-4⇒[1.0]		 ・業務(調査)計画書に必要事項が記載されていた。 ・当該作業(業務)の目的、内容が理解されていた。 ・業務(調査)計画書の実施方法等に、業務内容を具体化する記述があった。 ・特記仕様書等に示された当該作業(業務)と関連する他の作業(業 		
			必要情報の 把握	20	評価細目f _{zy} /数=0⇒「0.2」 評価細目f _{zy} /数=1⇒「0.4」 評価細目f _{zy} /数=2⇒「0.6」 評価細目f _{zy} /数=3⇒「0.8」 評価細目f _{zy} /数=4⇒「1.0」	□・作業(業務)□ ・作業(業務)た。□ ・作業(業務)なされていた。・作業(業務)	・作業(業務)遂行段階で、新たなに必要とされた情報収集の努力がなされていた。 ・作業(業務)遂行段階で、当該作業(業務)に有意な情報が自主的		
		業務執行技術力	検討項目 検討手法	20	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 評価細目チェック数=1⇒「0.4」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」 評価細目チェック数=3⇒「0.8」 評価細目チェック数=4⇒「1.0」		□ に提供された。 □ ・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。 □ ・採用された検討手法の技術的内容は、作業 (業務) の目的に適合していた。 □ ・作業 (業務) 目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、検討項目間の整合も図られていた。 □ ・提案された作業 (業務) 手法は、従来技術を応用・統合化あるいは先		
		打ち合わせ 資料の内容 〔減点評価〕	20	チェック数 評価細目チェック数=0⇒「1.0」 評価細目チェック数=1⇒「0.8」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」		□ 進程をかたに作べ、(本物) するは、に木(大阪) であった。(注1) 連接術を活用するなど、難易度の高いものであった。(注1) ・打ち合わせ資料に、作業 (業務) の各段階で必要とされる内容が盛り込まれていなかった。 □ ・打ち合わせ資料に大きなミスがあった。			
			十分な技術力	20	チェック数 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 評価細目チェック数=1⇒「0.4」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」 評価細目チェック数=3⇒「0.8」 評価細目チェック数=4⇒「1.0」		・作業(業務)に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理解されていた。 ・特記仕様書等に示された当該作業(業務)固有の条件に対応可能な十分な技術力を有していた。(測量においては、作業に応じた機器等が配置されていたことも併せて評価する) ・作業(業務)遂行段階において発注者から新たに指示された事項について十分満足できる解決が図られていた。 ・新たな、あるいは高度がより、		
			小 計	100	(1)		□ きる能力を有していた。注1)		
			\1, bl	100	U				

注1) 考査基準の巻末「参考:採点上の補足」を参照のこと。

入力シート(様式第1号) 〔(主任)監督員用				、様式第	31号) 〔(主任)監督員月	制〕	大切	
	ii Ii	平価項目	評価の視点	配点	得点率 優響 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目	
			実施手順工程計画	30	評価細目チェック数=0⇒「1.0」 評価細目チェック数=1⇒「0.8」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」		□ ・契約締結後14日以内に作業 (業務) 工程表が提出されないなど、速やかに作業 (業務) 着手がなされなかった。 □ ・作業 (業務) 実施方針及び作業 (業務) 工程表には、設計図書に示された事項が適切に反映されていなかった。	
			実施体制	10	評価細目チェック数=0⇒「1.0」 評価細目チェック数=1⇒「0.8」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」		・契約図書に基づき、管理技術者届け及び調査(業務)計画書が提出されなかった。注1) ・調査(業務)計画書に示された業務組織計画に基づく実施体制により、業務が履行されなかった。	
		工程管理能力	打合せ内容の 理解、記録	10	評価細目チェック数=0⇒「1.0」 評価細目チェック数=1⇒「0.8」 評価細目チェック数=2→「0.6」		・打合せ記録簿が提出されなかった。・打合せ記録簿の記載内容が打ち合わせ結果を適切に反映してなかった。	
プロセス評価	管理技術力			内部関係者へ の情報伝達	10	評価細目fxyク数=0⇒「1.0」 評価細目fxyク数=1⇒「0.8」 評価細目fxyク数=2⇒「0.6」		・受注者内の意志疎通が不十分であり、指示や打ち合わせ事項が資料等に反映されなかった。 ・受注者内の意志疎通が不十分であり、同様な指示を何度も実施した。
			工程管理	40	評価細目チェック数=0⇒「1.0」 評価細目チェック数=1⇒「0.8」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」		・工程に遅れが目立ち、履行期限内に納品されない恐れがあり、繰り返し指示を行った。(発注者側に遅延要因がある場合を除く) ・工程に遅れが目立ち、関連する他の業務・事業等に影響を及ぼした。(発注者側に遅延要因がある場合を除く)	
			小計	100	1			
		品質管理能力 〔加点評価〕	ミス防止の 実施	100	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 評価細目チェック数=1⇒「0.8」 評価細目チェック数=2⇒「1.0」		・第三者(管理技術者、担当技術者、照査技術者以外)のチェック等自主的な品質管理の努力がなされていた。注1) ・品質管理のためのシステム(ex. ISO9001)が構築されている部署で作業(業務)を行った。	
			小計	100	(1)			

注1) 地質調査、測量作業及び調査業務においては、主任技術者及び担当技術者以外が該当する。

入力シート (様式第1号) 〔(主任)監督員用〕

点 率 評価項目 評価の視点 配点 優 標準 劣 得点 評価細目 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2 □ ・作業(業科 に対応した。 (業務)遂行中に生じた、当初工程計画からの変更要請に迅速 評価細目チェック数=0⇒「0.6」 評価細目チェック数=1→「0.8」 □ ・その結果生じた検討(作業)内容が特に優れていた。 当初計画の 評価細目チェック数=2⇒「1.0」 40 変更 チェック数 ・発注者からの指示に基づき、関連事業者間の調整のための資料が円 □滑に作成された。 迅速性 評価細目チェック数=0⇒「0.6」 評価細目チェック数=1⇒「0.8」 □ ・作成された資料の内容が特に良くとりまとめられていた。 関連事業者間 評価細目チェック数=2→「1.0」 理 弾力性 30 の調整 技 調整能力 力 チェック数 [加点評価] ・発注者からの指示に基づき、地元住民との合意形成のための資料が □ 円滑に作成された。 評価細目チェック数=0⇒「0.6」 評価細目チェック数=1⇒「0.8」 □ ・作成された資料の内容が特に良くとりまとめられていた。 地元住民との 30 評価細目チェック数=2→「1.0」 合意形成 チェック数 小 計 100 1 □ ・日時・場所・参加者・目次・頁等が明記された資料となっていた。 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 評価細目チェック数=1⇒「0.4」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」 理解しやすい □ ・図表等を用いることにより、理解しやすい資料となっていた。 セ 説明 評価細目チェック数=3⇒「0.8」 30 マ プ レセ ンテーション 評価細目チェック数=4⇒「1.0」 □ ・資料の内容が簡潔明瞭であり、理解しやすい資料となっていた。 評 (資料) 価 □ ・資料の要約が作成されており、容易に内容を捉えることができた。 チェック数 □ ・打合せ開始時に、打合せの趣旨・目的が説明された。 評価細目チェック数=0⇒「0,2」 評価細目チェック数=1⇒「0.4」 理解しやすい ・質問に対し的確な回答がなされた、又は即答できない場合には回答 評価細目チェック数=2⇒「0.6」 期限が提示された。 説明 評価細目チェック数=3→「0.8」 30 プレセンテーション 評価細目チェック数=4→「1.0」 □ ・一般論と当該作業(業務)固有の議論が明確に区別されていた。 (対応) ュ ・曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易に理 チェック数 □ 解できた。 説明力 ケー 協調性 □ ・説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力されていた。 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 評価細目チェック数=1⇒「0.4」 ・説明が不十分若しくは説明当事者の説明が不十分の場合、他のメン プレゼンテーション力 3 評価細目チェック数=2⇒「0.6」 □ バーにより補足説明がなされた。 説明を補う 20 評価細目チェック数=3→[0.8] 努力 評価細目チェック数=4→「1.0」 力 ○ ・相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。 チェック数 □ ・説明を補足するための的確な資料が、周到に用意されていた。 □ ・密に作業(業務)の進捗状況等が発注者に報告されていた。 評価細目チェック数=0⇒「0.6」 □ ・IFへ なされた。 ・作業(業務)遂行上、課題や問題点が発生した場合に迅速に報告が 評価細目チェック数=1→「0.8」 円滑な業務 遂行への努力 評価細目チェック数=2⇒「1.0」 20 [加点評価] チェック数 小 計 100 1

人刀シート(様式第1号) 〔(王仕)監督貝用」					第1号)〔(主任)監督員月	業務名:	(4)	
評価項目		平価項目	評価の視点	配点	機 点率 優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目	
プロセス評価	取組姿勢	責任感 積極性 倫理観	責任感積極性	100	評価細目f _{±γ} /数−0⇒ [0.2] 評価細目f _{±γ} /数−1⇒ [0.4] 評価細目f _{±γ} /数−2⇒ [0.6] 評価細目f _{±γ} /数−3⇒ [0.8] 評価細目f _{±γ} /数−4→ [1.0]		□ ・管理技術者、照査技術者、担当技術者として、責任逃れの言動は無かった。注1) □ ・打合せにおいて確認・解決すべき事項について見逃しがなかった。 □ ・作業 (業務) 遂行に誤りが無いよう、必要に応じ協議事項・決定事項等が再確認されていた。 □ ・作業 (業務) 遂行段階において不明な点が生じた場合、問い合わせや確認が迅速になされた。	
			小 計	100	①			
			目的の達成度 40		評価細目f±yク数=0⇒[0.2] 評価細目f±yク数=1⇒[0.4] 評価細目f±yク数=2⇒[0.6] 評価細目f±yク数=3⇒[0.8] 評価細目f±yク数=4⇒[1.0]		 ・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 ・作業(業務)遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 ・作業(業務)成果は、作業(業務)目的に照らし満足できる内容のものであった。 ・高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い作業(業務)に対し必要な作業(業務)成果が得られた。注2) 	
結果評価	J.	 大果品の品質	的確な とりまとめ	30	評価細目fxy/数=0⇒[0.2] 評価細目fxy/数=1⇒[0.4] 評価細目fxy/数=2⇒[0.6] 評価細目fxy/数=3⇒[0.8] 評価細目fxy/数=4⇒[1.0] チェック数 評価細目fxy/数=0⇒[0.2]		(来物)に対し必要本作業(来物)成来が持ちれた。ほと) ・設計図書にある検討項目、作業(業務)遂行段階での指示事項を、漏れなく取りまとめている。 ・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 ・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がみられ読みやすい。 ・設計図書にある事項、作業(業務)遂行段階での指示事項を関連づけ、重要な点が理解しやすく取りまとめられている。 ・成果品の品質に大きな影響を及ぼすような、重大なミスは無かった。	
			ミスの有無 30		評価細目fェック数=0⇒「0.2」 評価細目fェック数-1⇒「0.4」 評価細目fェック数=2⇒「0.6」 評価細目fェック数=3⇒「0.8」 評価細目fェック数-4⇒「1.0」		 ・誤字・脱字、表記・計算ミスがわずかに認められたが、簡易に修正できる軽微なものであった若しくはミスがなかった。 ・修正が必要なミスは無かった。 ・ミスは無く、必要書類等も完備されていた。 	

注1) 地質調査、測量作業及び調査業務においては、主任技術者及び担当技術者が該当する。

注2) 考査基準の巻末「参考:採点上の補足」を参照のこと。

B	
所 見	
(※必ず記載すること)	

地質調査・測量・調査業務成績考査表 入力シート(様式第1号) 〔総括監督員用〕							業務名:	(1/1)
評価項目		平価項目	評価の視点	配点 (A)	機 点 率(B) 機 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点 A×B	評 価 細 目	
プロ	専門技術力	業務執行技術力	業務執行技術力	100	評価細目fxyク数=0⇒「0」 評価細目fxyク数=1⇒「0.2」 評価細目fxyク数=2⇒「0.4] 評価細目fxyク数-3⇒「0.6] 評価細目fxyク数-3⇒「0.8」 評価細目fxyク数=5⇒「1.0]		□ ・当該作業 (業務) の目的と内容の理解について、特に評価でき のであった。 □ ・当該作業 (業務) に必要な情報の把握について、特に評価でき のであった。 □ ・当該作業 (業務) に対する検討項目及び検討手法について、契 価できるものであった。 □ ・当該作業 (業務) の打合せ資料の内容について、特に評価でき のであった。 □ ・当該作業 (業務) に必要とされる技術力を十分に発揮し、特に できるものであった。	まるも
セス芸			小 計	100	3			
評価	取組姿勢	責任感 積極性 倫理観	責任感 積極性 倫理観	100	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 評価細目チェック数=1⇒「0.4」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」 評価細目チェック数=3⇒「0.8」 評価細目チェック数=4⇒「1.0」		 ・企業として積極的に技術の研鑽に取り組んでいる。 ・当該作業(業務)遂行にあたって、取り組みへの積極性・責任対して評価できるものであった。 ・地域への貢献等に関して、特に評価できるものであった。 ・作業(業務)遂行中、新たに発生した課題等に対して、社内全して体制の拡充を図る等により、作業(業務)を完成させた。 	
			小 計	100	3			

所 見

(※必ず記載すること)

地	1質訓	調査・測量・調査シ 入	業務成績考査 カシート (様	:表 :式第	1 号)〔完了確認検査員用	業務名:	(1/1)	
	THE STATE	評価項目	評価の視点	配点 (A)	標準 宏 (B) 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点 A×B	評 価 細 目	
	曲		檢討項目 検討手法	50	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 評価細目チェック数=1⇒「0.4」 評価細目チェック数≥2⇒「0.6」 評価細目チェック数=3⇒「0.8」 評価細目チェック数=4⇒「1.0」		□・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。 □・採用された検討手法の技術的内容は、作業(業務)の目的に通ていた。 □・作業(業務)目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され討項目間の整合も図られていた。 □・提案された作業(業務)手法は、従来技術を応用・統合化ある進技術を活用するなど、難易度の高いものであった。注)	商合しれ、検
プロセス評価	导門技術力	業務執行技術力	十分な技術力	50	評価細目チェック数=0→「0.2」 評価細目チェック数=1→「0.4」 評価細目チェック数=2→「0.6」 評価細目チェック数=3→「0.8」 評価細目チェック数=4→「1.0」		・作業 (業務) に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等がに理解されていた。 ・特記仕様書等に示された当該作業 (業務) 固有の条件に対応可一分な技術力を有していた。 (測量においては、作業に応じた核が配置されていたことも併せて評価する) □ ついて十分満足できる解決が図られていた。 ・新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に十分きる能力を有していた。 注)	可能な 機器等 事項に
jju,	l _'		小 計	100	6			
	コミュニケーシ	説明力 協調性 プレゼンテーションカ	説明力 協調性 プレゼンテーション力	100	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 評価細目チェック数=1⇒「0.4」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」 評価細目チェック数=3⇒「0.8」 評価細目チェック数=4⇒「1.0」		●質問に対し的確な回答がなされ、一般論と当該作業(業務)は 議論が明確に区別されていた。 ● 曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易解できた。 ● 説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力され、相手の理に応じ、説明のボイント・速さ等が工夫されていた。	易に理 理解度
	ョン.	プ レゼ ジァーションプJ		<u> </u>	チェック数		一 バーにより補足説明がなされた。	
_	力		小 計	100	⑤			
			目的の達成度	40	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 評価細目チェック数=1⇒「0.4」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」 評価細目チェック数-3⇒「0.8」 評価細目チェック数-4⇒「1.0」		 ・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 ・作業(業務)遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 ・作業(業務)成果は、作業(業務)目的に照らし満足できるがものであった。 ・高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い(業務)に対し必要な作業(業務)成果が得られた。注) 	内容の
結果評価	i	成果品の品質	説 (新聞 日 5 x y 7 数 = 0 = 評価細目 5 x y 7 数 = 0 = 評価細目 5 x y 7 数 = 1 = 評価細目 5 x y 7 数 = 2 = 評価細目 5 x y 7 数 = 3 = 評価細目 5 x y 7 数 = 4 = 評価細目 5 x y 7 数 = 4 =		評価細目チェック数=0⇒「0.2」 評価細目チェック数=1⇒「0.4」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」 評価細目チェック数=3⇒「0.8」 評価細目チェック数=4⇒「1.0」		・設計図書にある検討項目、作業 (業務) 遂行段階での指示事項 漏れなく取りまとめている。 ・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 ・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫が れ読みやすい。 ・設計図書にある事項、作業 (業務) 遂行段階での指示事項を け、重要な点が理解しやすく取りまとめられている。	がみら
			ミスの有無	30	評価細目チェック数=0⇒「0. 2」 評価細目チェック数=1⇒「0. 4」 評価細目チェック数=2⇒「0. 6」 評価細目チェック数=3⇒「0. 8」 評価細目チェック数=4⇒「1. 0」		・成果品の品質に大きな影響を及ぼすような、重大なミスは無がた。 ・誤字・脱字、表記・計算ミスがわずかに認められたが、簡易に催きる軽微なものであった若しくはミスがなかった。	

注) 考査基準の巻末「参考:採点上の補足」を参照のこと。

小 計

100

チェック数

所 見	
(※必ず記載すること)	

⑤

□ ・修正が必要なミスは無かった。

□ ・ミスは無く、必要書類等も完備されていた。

設計業務「概略(予備)設計」成績考査表 入力シート(様式第1号) 〔(主任)監督員用〕					31号)〔(主任)監督員月	月)	業務名: (1/5)		
評価項目			評価の視点	配点	機 点 率 fg 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目		
		提案力 改善力 〔加点評価〕	業務着手段階 における業務 特性等の考慮	20	評価細目チェック数=0→「0.6」 評価細目チェック数=1→「0.8」 評価細目チェック数=2→「1.0」		・当該業務の仕様や発注者からの指示等を満たす提案がなされた ・当該業務の特性を考慮しつつ、新たな、あるいは高度な調査・ 設計等の手法・技術に関する提案がなされた。注)	-	
			業務遂行段階における提案	40	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 評価細目チェック数=1⇒「0.8」 評価細目チェック数=2⇒「1.0」		 □・業務遂行段階で新たな視点からの提案がなされた。 □・関連する多面的な視点から検討された、あるいは高度な技術レに基づく提案がなされた。注) 	・ベル	
			業務遂行上 必要となる 課題の提案	20	評価細目チェック数=0→「0.6」 評価細目チェック数=1→「0.8」 評価細目チェック数=2→「1.0」		□・当該業務で不足する課題が抽出された。□・検討課題と共に今後実施すべき検討事項・方針等が提案された	- o	
			業務内容等 改善の提案	20	評価細目チェック数=0⇒「0. 6」 評価細目チェック数=1⇒「0. 8」 評価細目チェック数=2⇒「1. 0」		一・業務の作業効率を向上させる提案が、自主的になされた。□・業務の内容・精度を向上させる提案が、自主的になされた。		
			小 計	100	①				
プロセス評価	専門技術力	業務執行技術力	目的と内容の 理解	20	評価細目fェック数-0⇒「0.2」 評価細目fェック数-1⇒「0.4」 評価細目fェック数-2⇒「0.6」 評価細目fェック数-3⇒「0.8」 評価細目fェック数-4⇒「1.0」		 ・業務計画書に必要事項が記載されていた。 ・当該業務の目的、内容が理解されていた。 ・業務計画書の実施方法等に、業務内容を具体化する記述があった。 ・特記仕様書等に示された当該業務と関連する他の業務、事業がされていた。 		
			必要情報の 把握	20	評価細目fェック数=0→「0.2」 評価細目fェック数=1→「0.4」 評価細目fェック数=2→「0.6」 評価細目fェック数=2→「0.8」 評価細目fェック数=4→「1.0」		・業務着手時点において、適切に資料等が整備された。 ・業務実施の各段階で、入手した資料が理解・活用されていた。 ・業務遂行段階で、新たなに必要とされた情報収集の努力がなさいた。 ・業務遂行段階で、当該業務に有意な情報が自主的に提供された		
			検討項目 検討手法	20	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 評価細目チェック数=1⇒「0.4」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」 評価細目チェック数=3⇒「0.8」 評価細目チェック数=4⇒「1.0」		□・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。 □・採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合してい ・業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、検討項の整合も図られていた。 □・提案された業務手法は、従来技術を応用・統合化あるいは先進活用するなど、難易度の高いものであった。注)	頁目間	
			打ち合わせ 資料の内容 〔滅点評価〕	20	評価細目fzyク数=0⇒「1.0」 評価細目fzyク数=1⇒「0.8」 評価細目fzyク数=2⇒「0.6」 チェック数		・打ち合わせ資料に、作業(業務)の各段階で必要とされる内容 り込まれていなかった。 ・打ち合わせ資料に大きなミスがあった。	ミが盛	
			十分な技術力	20	評価細目 f_{zy} 2数 $=0$ \Rightarrow [0, 2] 評価細目 f_{zy} 2数 $=1$ \Rightarrow [0, 4] 評価細目 f_{zy} 2数 $=2$ \Rightarrow [0, 6] 評価細目 f_{zy} 2数 $=3$ \Rightarrow [0, 8] 評価細目 f_{zy} 2数 $=4$ \Rightarrow [1, 0]		・業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理れていた。 ・特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分術力を有していた。 ・業務遂行段階において発注者から新たに指示された事項につい分満足できる解決が図られていた。 ・新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に十分	かな技	
			/\ ⊒L	100	チェック数		・ 利にな、めるいは同度な調査、仲間・政計等の子伝・狡猾に「カー きる能力を有していた。注)	71//L) C	
			小 計	100	U				

注) 考査基準の巻末「参考:採点上の補足」を参照のこと。

(1)

計

//\

100

1

100

小 計

1

計

小

100

設計業務「概略(予備)設計」成績考査表 入力シート(様式第1号)〔(主任)監督員用〕						業務名:	(5/5)	
評価項目		平価項目	評価の視点	視点 配点 優		得点	評価細目	
プロセス評価	取組姿勢	責任感 積極性 倫理観	責任感積極性	100	評価細目f±y/数=0⇒[0.2] 評価細目f±y/数=1⇒[0.4] 評価細目f±y/数=2⇒[0.6] 評価細目f±y/数=3⇒[0.8] 評価細目f±y/数=4⇒[1.0]		□ ・管理技術者、照査技術者、担当技術者として、責任逃れの言動かった。 □ ・打合せにおいて確認・解決すべき事項について見逃しがなかっ □ ・業務遂行に誤りが無いよう、必要に応じ協議事項・決定事項等認されていた。 □ ・業務遂行段階において不明な点が生じた場合、問い合わせや確迅速になされた。	か再確
			小 計	100	①			
			目的の達成度	40	評価細目チェック数=0⇒[0.2] 評価細目チェック数=1⇒[0.4] 評価細目チェック数=2⇒[0.6] 評価細目チェック数=3⇒[0.8] 評価細目チェック数=4⇒[1.0]		 ・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 ・業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 ・業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった ・高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高いに対し必要な業務成果が得られた。 	
結果評価	成果品の品質		的確な とりまとめ 30 成果品の品質		評価細目チェック数=0→「0.2」 評価細目チェック数=1→「0.4」 評価細目チェック数=2→「0.6」 評価細目チェック数=3→「0.8」 評価細目チェック数=4→「1.0」		・設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、漏れ取りまとめている。 ・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 ・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がれ読みやすい。 ・設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づけ、な点が理解しやすく取りまとめられている。	ぶみら
					ミスの有無	30	評価細目fェック数=0⇒「0.2」 評価細目fェック数=1⇒「0.4」 評価細目fェック数=2⇒「0.6」 評価細目fェック数=3⇒「0.8」 評価細目fェック数=4⇒「1.0」	
!					_			

注) 考査基準の巻末「参考:採点上の補足」を参照のこと。

訤	計業	έ務「概略(予備)設計」成績考 入力シート(育1号)〔総括監督員用〕		業務名:	(1/1)
	ij	平価項目	評価の視点	配点	機 点 率 (要 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目	
プロ	専門技術力	業務執行技術力	業務執行 技術力	100	評価細目fェック数=0→「0」 評価細目fェック数=1→「0.2」 評価細目fェック数=2→「0.4」 評価細目fェック数=3→「0.6」 評価細目fェック数=3→「0.8」 評価細目fェック数=5→「1.0」		□ ・当該業務の目的と内容の理解について、特に評価できるものでた。 □ ・当該業務に必要な情報の把握について、特に評価できるものでた。 □ ・当該業務に対する検討項目及び検討手法について、特に評価でものであった。 □ ・当該業務の打合せ資料の内容について、特に評価できるものでた。 □ ・当該業務に必要とされる技術力を十分に発揮し、特に評価できるのであった。	であっ できる できあっ
セスエ			小 計	100	3			
評価	取組姿勢	責任感 積極性 倫理観	責任感 積極性 倫理観	100	評価細目チェック数=0⇒ [0.2] 評価細目チェック数=1⇒ [0.4] 評価細目チェック数=2⇒ [0.6] 評価細目チェック数=3⇒ [0.8] 評価細目チェック数=4→ [1.0]		 ・企業として積極的に技術の研鑽に取り組んでいる。 ・当該業務遂行にあたって、取り組みへの積極性・責任感に対し価できるものであった。 ・地域への貢献等に関して、特に評価できるものであった。 ・業務遂行中、新たに発生した課題等に対して、社内全体として 	
			小計	100	デエック数 3		□ の拡充を図る等により、業務を完成させた。	

所 見

(※必ず記載すること)

設計業務「概略(予備)設計」成績考査表	
1 カシート (様式第1早)	[空了確認檢本昌田]

業務名	:	(1/1)

	Ī	平価項目	評価の視点	配点	標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目
プロセス評	専門技術力	業務執行技術力	檢討項目 檢討手法	50	評価細目チェック数=0⇒ [0.2] 評価細目チェック数=1⇒ [0.4] 評価細目チェック数=2⇒ [0.6] 評価細目チェック数=3⇒ [0.8] 評価細目チェック数=4⇒ [1.0]		 ・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。 ・採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合していた。 ・業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、検討項目間の整合も図られていた。 ・提案された業務手法は、従来技術を応用・統合化あるいは先進技術を活用するなど、難易度の高いものであった。注:)
			十分な技術力	50	評価細目チェック数=0⇒ 「0.2」 評価細目チェック数=1⇒ 「0.4」 評価細目チェック数=2⇒ 「0.6」 評価細目チェック数=3⇒ 「0.8」 評価細目チェック数=4⇒ 「1.0」		・業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理解されていた。 ・特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分な技術力を有していた。 ・業務遂行段階において発注者から新たに指示された事項について十分満足できる解決が図られていた。 ・新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に十分対応できる能力を有していた。 注
価			小 計	100	(5)		
	コミュニケーショ	説明力 協調性 プレゼンテーション力	説明力 協調性 プレゼンテーション力	100	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 評価細目チェック数=1⇒「0.4」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」 評価細目チェック数=3⇒「0.8」 評価細目チェック数=4⇒「1.0」		●質問に対し的確な回答がなされ、一般論と当該業務固有の議論が明確に区別されていた。 ・曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易に理解できた。 ・説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力され、相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。 ・説明が不十分若しくは説明当事者の説明が不十分の場合、他のメン
	ョンカ		小 計	100	5		一・説明が不下分石しくは説明日事者の説明が不下分の場合、他のメンバーにより補足説明がなされた。
		成果品の品質	目的の達成度	40	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 評価細目チェック数=1⇒「0.4」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」 評価細目チェック数=3⇒「0.8」 評価細目チェック数=4⇒「1.0」		 一・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 一・業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 一・業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。
結果評価	Б		的確な とりまとめ	30	チェック数 評価細目チェック数=0→「0.2」 評価細目チェック数=1→「0.4」 評価細目チェック数=2→「0.6」 評価細目チェック数=3→「0.8」 評価細目チェック数=4→「1.0」 チェック数		 ・高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い業務に対し必要な業務成果が得られた。注) □ 取計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、漏れなく取りまとめている。 □ ・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 □ ・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がみられ読みやすい。 □ か設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づけ、重要な点が理解しやすく取りまとめられている。 □ が成果品の品質に大きな影響を及ぼすような、重大なミスは無かった。
			ミスの有無	30	評価細目チェック数=0⇒「0. 2」 評価細目チェック数=1⇒「0. 4」 評価細目チェック数=2⇒「0. 6」 評価細目チェック数=3⇒「0. 8」 評価細目チェック数=4⇒「1. 0」 チェック数		 た。 ・誤字・脱字、表記・計算ミスがわずかに認められたが、簡易に修正できる軽微なものであった若しくはミスがなかった。 ・修正が必要なミスは無かった。 ・ミスは無く、必要書類等も完備されていた。
	l		小 計	100	5		

注) 考査基準の巻末「参考:採点上の補足」を参照のこと。

	所	見	
(※必	ず記載	載する	こと)

完了検査員用

訍	:計業	美務「詳細設計」)		様式第	写 1 号)〔(主任)監督員月	用 〕	業務名:	(1/5)
	ij	平価項目	評価の視点	配点	機 点 率 機 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目	
			業務着手段階 における業務 特性等の考慮	20	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 評価細目チェック数=1⇒「0.8」 評価細目チェック数=2⇒「1.0」		 □ ・当該業務の仕様や発注者からの指示等を満たす提案がなされた □ ・当該業務の特性を考慮しつつ、新たな、あるいは高度な調査・検 設計等の手法・技術に関する提案がなされた。注) 	
		提案力	業務遂行段階における提案	40	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 評価細目チェック数=1⇒「0.8」 評価細目チェック数=2⇒「1.0」		 □・業務遂行段階で新たな視点からの提案がなされた。 □・関連する多面的な視点から検討された、あるいは高度な技術レに基づく提案がなされた。注) 	ベル
		改善力 〔加点評価〕	業務遂行上 必要となる 課題の提案	20	評価細目チェック数=0→ [0.6] 評価細目チェック数=1→ [0.8] 評価細目チェック数=2→ [1.0]		□ ・当該業務で不足する課題が抽出された。□ ・検討課題と共に今後実施すべき検討事項・方針等が提案された	
			業務内容等 改善の提案	20	評価細目f _{zy} /数=0⇒[0.6] 評価細目f _{zy} /数=1⇒[0.8] 評価細目f _{zy} /数=2⇒[1.0]		□ ・業務の作業効率を向上させる提案が、自主的になされた。□ ・業務の内容・精度を向上させる提案が、自主的になされた。	
			小 計	100	1			
プロセス評価	専門技術力		目的と内容の 理解	20	評価細目fェック数-0⇒[0.2] 評価細目fェック数-1⇒[0.4] 評価細目fェック数-2⇒[0.6] 評価細目fェック数-3⇒[0.8] 評価細目fェック数-4⇒[1.0]		 一・業務計画書に必要事項が記載されていた。 一・当該業務の目的、内容が理解されていた。 一・業務計画書の実施方法等に、業務内容を具体化する記述があった。 □・特記仕様書等に示された当該業務と関連する他の業務、事業があれていた。 	
			必要情報の 把握	20	評価細目f _{xy} /数=0→[0.2] 評価細目f _{xy} /数=1→[0.4] 評価細目f _{xy} /数=2→[0.6] 評価細目f _{xy} /数=3→[0.8] 評価細目f _{xy} /数=4→[1.0]		□ されていた。 □ ・業務着手時点において、適切に資料等が整備された。 □ ・業務実施の各段階で、入手した資料が理解・活用されていた。 □ ・業務遂行段階で、新たなに必要とされた情報収集の努力がなさいた。 □ ・業務遂行段階で、当該業務に有意な情報が自主的に提供された	
		業務執行技術力	検討項目 検討手法	20	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 評価細目チェック数-1⇒「0.4」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」 評価細目チェック数=3⇒「0.8」 評価細目チェック数=4⇒「1.0」		 ・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。 ・採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合していい業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、検討項の整合も図られていた。 ・提案された業務手法は、従来技術を応用・統合化あるいは先進行活用するなど、難易度の高いものであった。注) 	[目間
			打ち合わせ 資料の内容 〔減点評価〕	20	評価細目チェック数=0⇒「1.0」 評価細目チェック数=1⇒「0.8」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」 チェック数		・打ち合わせ資料に、作業(業務)の各段階で必要とされる内容り込まれていなかった。 ・打ち合わせ資料に大きなミスがあった。	:が <u>盛</u>
			十分な技術力	20	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 評価細目チェック数=1⇒「0.4」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」 評価細目チェック数=3⇒「0.8」 評価細目チェック数=4⇒「1.0」		・業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理れていた。 ・特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分術力を有していた。 ・業務遂行段階において発注者から新たに指示された事項につい分満足できる解決が図られていた。	?な技 vて十
					チェック数		・新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に十分が きる能力を有していた。注)	可心で
			小 計	100	①			

注) 考査基準の巻末「参考:採点上の補足」を参照のこと。

(1)

計

//\

100

小 計

1

小 計

100

設	計業	養養「詳細設計」		様式第	亨1号)〔(主任)監督員月	刊)	業務名:	(5/5)
	i	平価項目	評価の視点	配点	機 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目	
プロセス評価	取組姿勢	責任感 積極性 倫理観	責任感積極性	100	評価細目f _{ェッ} ク数=0⇒「0.2」 評価細目f _{ェッ} ク数=1⇒「0.4」 評価細目f _{ェッ} ク数=2⇒「0.6」 評価細目f _{ェッ} ク数=3⇒「0.8」 評価細目f _{ェッ} ク数=4⇒「1.0」		□ ・管理技術者、照査技術者、担当技術者として、責任逃れの言動かった。 □ ・打合せにおいて確認・解決すべき事項について見逃しがなかっ □ ・業務遂行に誤りが無いよう、必要に応じ協議事項・決定事項等 認されていた。 □ ・業務遂行段階において不明な点が生じた場合、問い合わせや確迅速になされた。	が再確
			小 計	100	1			
			目的の達成度	40	評価細目fxy/数=0⇒「0.2」 評価細目fxy/数=1⇒「0.4」 評価細目fxy/数=2⇒「0.6」 評価細目fxy/数-3⇒「0.8」 評価細目fxy/数=4⇒「1.0」		 ・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 ・業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 ・業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった ・高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高いに対し必要な業務成果が得られた。注:) 	
結果評価	J	求果品の品質	的確な とりまとめ	30	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 評価細目チェック数=1⇒「0.4」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」 評価細目チェック数=3⇒「0.8」 評価細目チェック数=4⇒「1.0」		 ・設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、漏れ取りまとめている。 一・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 一・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がれ読みやすい。 一・設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づけ、な点が理解しやすく取りまとめられている。 	ぶみら
			ミスの有無	30	評価細目チェック数=0⇒[0.2] 評価細目チェック数=1⇒[0.4] 評価細目チェック数=2⇒[0.6] 評価細目チェック数=3⇒[0.8] 評価細目チェック数=4⇒[1.0]		 ・成果品の品質に大きな影響を及ぼすような、重大なミスは無かた。 一・誤字・脱字、表記・計算ミスがわずかに認められたが、簡易に修きる軽徴なものであった若しくはミスがなかった。 一・修正が必要なミスは無かった。 ー・ミスは無く、必要書類等も完備されていた。 	
			小事	100	<u> </u>			

注) 考査基準の巻末「参考:採点上の補足」を参照のこと。

所 見	
(※必ず記載すること)	

訍	常信	養子詳細設計 」	成績考査表 入力シート((様式)	第1号)〔総括監督員用〕		業務名:	(1/1)
	ii P	平価項目	評価の視点	配点	機 点 率 で 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目	
プロ・	専門技術力	業務執行技術力	業務執行 技術力	100	評価細目チェック数=0⇒「0」 評価細目チェック数=1⇒「0.2」 評価細目チェック数=2⇒「0.4」 評価細目チェック数=3⇒「0.6」 評価細目チェック数=3⇒「0.8」 評価細目チェック数=5⇒「1.0」		・当該業務の目的と内容の理解について、特に評価できるものでた。 ・当該業務に必要な情報の把握について、特に評価できるものでた。 ・当該業務に対する検討項目及び検討手法について、特に評価できるものであった。 ・当該業務の打合せ資料の内容について、特に評価できるものでた。 ・当該業務に必要とされる技術力を十分に発揮し、特に評価できるものであった。	であってきる
セスコ			小 計	100	3			
評価	取組姿勢	責任感 積極性 倫理観	責任感 積極性 倫理観	100	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 評価細目チェック数=1⇒「0.4」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」 評価細目チェック数=3⇒「0.8」 評価細目チェック数=4⇒「1.0」		 ・企業として積極的に技術の研鑽に取り組んでいる。 ・当該業務遂行にあたって、取り組みへの積極性・責任感に対し価できるものであった。 ・地域への貢献等に関して、特に評価できるものであった。 ・業務遂行中、新たに発生した課題等に対して、社内全体としての拡充を図る等により、業務を完成させた。 	
			小 計	100	3			
		所 見						

(※必ず記載すること)

設計業務「詳細設計」成績考査表	
1 カシート (様式第1早)	「 字 了 碑 籾 烩 本 昌 田)

業務名: (1/1)

		7 (7)	y 1 (18/20	N1 - 4	デル 【元】催祕快宜貝用】		
	i	平価項目	評価の視点	配点	標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目
	専		検討項目 検討手法	50	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 評価細目チェック数=1⇒「0.4」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」 評価細目チェック数=3⇒「0.8」 評価細目チェック数=4⇒「1.0」		□ ・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。 □ ・採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合していた。 □ ・業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、検討項目間の整合も図られていた。 □ ・提案された業務手法は、従来技術を応用・統合化あるいは先進技術を活用するなど、難易度の高いものであった。注)
プロセス評価	門技術力	業務執行技術力	十分な技術力	50	評価細目f±y2数=0⇒「0.2」 評価細目f±y2数=1⇒「0.4」 評価細目f±y2数=2⇒「0.6」 評価細目f±y2数=3⇒「0.8」 評価細目f±y2数=4→「1.0」		・業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理解されていた。 ・特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分な技術力を有していた。 ・業務遂行段階において発注者から新たに指示された事項について十分満足できる解決が図られていた。 ・新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に十分対応できる能力を有していた。注)
価			小 計	100	5		
	コミュニケーショ	説明力 協調性 プレゼンテーション力	説明力 協調性 プレゼンテーション力	100	評価細目f _{xy} /y数=0⇒「0.2」 評価細目f _{xy} /数=1⇒「0.4」 評価細目f _{xy} /数=2⇒「0.6」 評価細目f _{xy} /数=3⇒「0.8」 評価細目f _{xy} /数=4⇒「1.0」		□ ・質問に対し的確な回答がなされ、一般論と当該業務固有の議論が明確に区別されていた。 □ ・曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易に理解できた。 □ ・説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力され、相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。 □ ・説明が不十分若しくは説明当事者の説明が不十分の場合、他のメンバーにより補足説明がなされた。
	ン 力		小 計	100	(5)		
			目的の達成度	40	評価細目fxy2数=0→「0.2」 評価細目fxy2数=1→「0.4」 評価細目fxy2数-2→「0.6」 評価細目fxy2数-3→「0.8」 評価細目fxy2数-4→「1.0」		 ・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 ・業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 ・業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。 ・高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い業務
結果評価	,	果品の品質	的確な とりまとめ ミスの有無	30	チェック数 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 評価細目チェック数=1⇒「0.4」 評価細目チェック数=2⇒「0.6」 評価細目チェック数=3⇒「0.8」 評価細目チェック数=4⇒「1.0] チェック数 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 評価細目チェック数=3⇒「0.4」 評価細目チェック数=3⇒「0.6]		□ に対し必要な業務成果が得られた。注 □ ・設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、漏れなく 取りまとめている。 □ ・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 □ ・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がみられ読みやすい。 □ ・設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づけ、重要 な点が理解しやすく取りまとめられている。 □ ・成果品の品質に大きな影響を及ぼすような、重大なミスは無かった。 □ ・認字・脱字、表記・計算ミスがわずかに認められたが、簡易に修正できる軽微なものであった若しくはミスがなかった。 □ ・修正が必要なミスは無かった。 □ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
			小 計	100	(5)		
<u> </u>			7 101				

注) 考査基準の巻末「参考:採点上の補足」を参照のこと。

	所	見	
(※必	ず記載	載するこ	(성

様式第2号			委	託美	業 務	成績 評	定表	Ê	平月	成 年	月	日
							事務所名	:	T)-		71	
委 託 業	務等名											
道川	港名					履行場所						
設計	金 額	当初:¥					最終:	¥				
契約	金 額	当初:¥					最終:	¥				
履行	期間	当初:平成	年	月 日	~平成	年 月 日	最終:平	成 年	月	日~平成	年	月 日
契 約	年	月 日			平	成年		月	月			
実 地 🤋	完 了 年	月 日			並	成年		月	日			
完 了 確	認検査	年 月 日			並	成年		月	目			
受託者 (会	社名、代表者:	職・氏名)										
管 理 (主	任)技術	者氏名										
照 査 技	支 術 者	氏 名										
担当打	支 術 者	氏 名										
	完 了 確	認検	査 員	職 •	氏 名	•			-			印
評 定 者	総括	監督	員	職 •	氏 名							印
	監督員又	は主任監	督員	職 •	氏 名							印
			(主任)	総括	完了確認	光文学工	⇒ @			技術者評定		
評	価 項 目		監督員 評定点 ①	監督員 評定点 ③	検査員 評定点 ⑤	業務評算 (注 1		管理技術 (主任 " (注2))	担当技術者	照查	支術者
	提案力、	改善力				①×10/10						
	業務執行	 方技術力				①×2/10+ ③×3/10+ ⑤×5/10						
専門技術力	施工時への	概略設計 予備設計				①×10/10						
	配慮(注3)	詳細設計				①×10/10						
	コスト把握能	L 記力(注3)				①×10/10						
	工程管:	理能力				①×10/10						
管理技術力	品質管:	理能力				①×10/10						
	迅速性、弾力					①×10/10						
コミュニケーション力	説明力、 プレゼンテ [、]	協調性 ーション力				①×4/10+ ⑤×6/10						
取組姿勢	責任感、積極	姓、倫理観				①×4/10+ ③×6/10						
成果	: 品の品	質				①×4/10+ ⑤×6/10						
<u></u> 終	⑩=⑦の評定	E点の加重平均	匀点(注·	4)								
総 辞 定	①事故等によ		法1 光型	z+6=:,- 1	- 44c y -				\dashv			
	□型坂泚修補、排	員害賠償又は手	・但し業務	5指示によ		 合評定点			-			
	和虚化光)子担(字) ()	- トマが1	▶ 新 中 上 ∘	13=	= (10+(11)+(12)						
変更年		は損害賠償に	- よる総合	1 赶上尽(^(日) の総合評定点			\dashv			

- 注) 1. 各評価項目の「⑦業務評定」は、小数第1位までとする。 2. 地質調査、測量作業及び調査業務においては、主任技術者が該当する。
 - 3. 「施工時への配慮」及び「コスト把握能力」は、設計業務のみ評定の対象とする。 4. 「⑩=⑦の評定点の加重平均点」は、小数第1位を四捨五入し整数とする。

(1) 地質調査 測量 調査業務成績考査表

(1)地	集計一覧	後表 (様)	式第3号)		AR4						_																		_							9 -	2 2 2 5							
	評価項		89 Ø	価細			主任監督	(調査) 員						搭監督 (調	E) #			_		完了検査1	Ť	1	評定点 (注2)			# H SF	定の真出				管理技術者、	主任技術者				差面数	所 者 評 定 技術者(注1) 加藤平均点の第	Tale .		ι		所査技術者 加賀平均点の	Will	
		-A II			52.0	得点率	等点的拼	192		調整後の 評定点		配点	特点率 书	占約五	##	製造後の 評定点	2	82.6	H: 計畫字	等点软肥	等点	制整後の 評定点	(注2)	PEA	17	## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##	(Re	/ 36 8	野定点		重み3)	(No.	, 7 3	B/A 391	ta	重み®	8	E /	海点	Pita	並み⑤	DIE T-2020	(Re	a.c
	**	提案 改善 【加点數	カー対象	におり の は 日本 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	% 1 20 % 1 40 % 1 20 % 1 20	1.0~0. 1.0~0.				3- 1×10×10													0-2	⊅×8	2	2		/ 200	⊕×B		2 9,5 3		7		· 38	2		- /	200				A 100	
	扶剪力	集器執行	日的 おの の様 を行	と内 機制 機制 機制 機制 発動 発動 の の の の の の の の の の の の の の の の の	20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 2	1.0~0. 1.0~0. 1.0~0. 1.0~0.	2 20- 4 2 20- 4 2 20- 4 2 20- 4 6 20-12 2 20- 4	Tie Tie	31:	≵= ①×2∕10	0		1.0~0	100~0		4]= 3)×3/:		0 50	1.0~0.2 1.0~0.2	50~10		©= ©×5∕10	Ø= Ø+€+₽	Ø×®	4	4		/ 400			4		7 -	100	- 3	4		- /	400					
プロセス評価	管理故	工程管理	型能力 容の 解し 対 解し 対 の 対 の 対 の 対 の 対 が 対 が 対 が 対 が 対 が 対 が	工規 〇 (体制 〇 で内 の場 〇 反線 の情 〇 (計 〇)計	% 2 30 % 2 10 % 2 10 % 2 10 % 2 40 103	1.0~0.	6 30~18 6 16~ 6 6 10~ 6 6 10~ 6 6 10~ 6 6 45~24 100~60	D=		2= T)×10/10													7=2: D=	②×8:		2		/ 200	⊙×8	ı	2 9.5 5	2	7 :	200										
14	カ	品質管理	O3	美務 一			€ 100~60			2= 1) × 10 / 10													7:2	7×8	2			/ 200	②×8)		2		7 :	200						Ø×8	2	- 1	_ /	200
		(神経歌) 田途: 弾力: 調整部 (加点數	性質量	## O	%1 40 %1 30 %1 30	1.0~0	6 40-24 6 30~18			2= D×10/10													D=2	Ø×8	1	1		/ 100	7×8		9.5 5		/	100							(66,7	N .		
	コミュニケーションカ	説明 協願 プレセ゚ンテー	理解 すじ 切った 理がし 切った	しや い致 アルゲ シショ した アルゲ シショ を 対 で 変 の で で の で の の で の の で の の の の の の の	30 30 30 20 881 20	1.0~0. 1.0~0. 1.0~0.	2 30~ 6 2 30~ 6 2 20~ 4 6 20~ 12	70-	71-	∑= ⊕×4∕10									1.0~0.2			©= %×6∕10	7)= 2)+%	⊙×®	1	1		/ 100			1		/	100		1		- /	100					
	取 植 安 野	責任! 積極 倫理:	性	現性 語。 性、) 103	1.0~0	2 100~20 100~20	D-	2)-	2= ①×4/10		100	1,0~0,2			2×6/:							⊕: 8+40	(3) × (8)	(1	2		/ 200		ì	2		7			2		- /	200					
総 果 評 価	成果	果品の品質	125	など	0 40 0 30 0 30 100	1.0~0.	2 40~ 8 2 30~ 6 2 30~ 6 100~20	3=	2=	2)- (1)×4×10								0 30		30~ 6 30~ 6		©- ©×6/10	(7)= (5)+(6) (7)=	②×30	(33	1.3 %		/ 700	Ø×8		7 33.3 5		7	700	(3)	4 30,8	- u	- /	400	②×30	1 (31,3	v.	- /	100
				Œ-	の評定点	の加重平	5点 (注3)																		21 m s		/ 2,100	' I		21	.	/ 2	. 100		13	. -		1,300		3			300
#	合評	定点の	算定	(2 r		託者の責	任に起因っ	皆を対象と する瑕疵が		内国書に記さ	れた手続	きに従い	、瑕疵修補	若しくは	員害賠償が実施	Eされた場合	、又は手直	直し業務を	指示した場合	の減血	(軽微なミスの	修正を除く)			. 10				E		nV)	-		_		100	W 1							
				_	主任)宣信								- 1.	(教授董書	•								(完了検査員)																					_
(*4	所込ず記	職する	見 ること)		±.(E/ = ■	~′								क्ये गा म ि	~/								OS PREMI											*	2 8 27 6	点評価項目 5技術者』は、6 5項目の「7/#8	それぞれ3人ま 独辞定」は、少! 知至平均点」は、	数第一位まで	とする。 を四胎五入し着	を数とする 。				

(2)設計業務「概略(予備)設計」成績考査表

	集計一覧	E捌Ⅰ概略(予1 [表(様式第3	順/設計」. 号)	元報 号 114 次 業務名:																					-					
	評価:		評価の類		(主任)監督員				総括壁	公共		1 -		完了验認検查員		評定点 (注 2)			群 定 事字物点の算出			管理技術者、生作 加포平1	I 技術者		5	(資 者 詳 定 調技報者(注1) 加重平均点の算			游查技術: 加重年:	
			の視点	85A 18A	F WARE WA	誤整後の 評定点		RA WA	平 特点税阻	66	顕整後の 辞定点		配点 特点率	传统联团 传统	調整後の 評定点	(3±2)	PRA	100	@c (7×®	/ W.O.	評定者	108		消化 研究	B ##8		m 18 / Whit	PRA	重み⑤	(C: / NA
			業務着子 投数后表 業務運行		1.6 20~12																									A .
		提案力 改善力	美教徒行	O ⊞1 40 1.0~1 O ⊞1 20 1.0~1		2= ①×10∕10										7)=2)	(7) × 8)	2		/ 200	(7) × 8)	2		(7)×:	B 2	١.	/ 200			
		(加水評価)	上の場と 業務内容 等改善の	O ※1 20 1.0~1																										
	L		↑ 8t	100	100~60 Ti=	2:-										(T)=		8.3 1	a l			(8.3 %)			(12.5	30				4
			谷の理解 公別機能	O 20 1.0~1	1.2 20~ 4																									4
			の把握 検討項 日、除対		1.2 20~ 4	2)= (1)×2∠10	0	100 1.0~	-0 100~0		30×3×10	0	50 1,0~0,2	2 50~10	©= ©×5∕10	(7)= (2)+(4)+(8)	②×30	4		/ 400	(7) × (8)	4			p 4	١.				A .
	*	業務執行技術力	日、検討 打ち合わ 世世料の 十分な技	O ±2 20 1.0~																/ 400			/	400		-	/ 400			A
	放射		州力	0 20 1.0~1	1.2 20~ 4 100~22 3=	4-		100	100=0	0=	3=		90 1.0~0.2	2 50~10 100~20 (S=	Ø=	An		16.7	.			(16.7 %)			(25.0	, u				
	h -	施工時へ イ. 「機能	BEIDE	Δ 60 1.0~1		24			100	-	-				-			1	-											
		の配成 設計時算 第. の場合	主る一般 第二条件 等の把握	Δ 40 1.0~1		∑= 10×10×10										Ø=2	7) × 8)			/ 100	(7) × B	1	7	(D×		-	/ 100			4
		100. 欧計業務 の場合	小 計 能工に関	100	100~20]=	2-						-				D-		4,2 1				(4.2 %			(6,3	5)		_		
		を対象に評 世する。 イ、ロの 数計』	する一般			-																								
		定する。 イ、ロの いずれか を選択す の場合	#の定数 能工計画 (施工方								i																			4
	L	る。)	⊕ 81			7.							_/						_											4
7		コスト他性能刀 (設計業務を対象 に評定する。)	コスト組 複雑力 ハ・針	△ 100 1.0~1	100~20	①×10×10			\rightarrow			+	\rightarrow	-		(2=2) (2=	Ø×8	4.2 1	.	/ 100	②× B	1 4.2 50	7	100 Ø×:	(6,3	. -	/ 100			4
10 A		CHAPTON)	実施平 順、工程	O 38 2 30 1.0~I	1.6 30~18											*														
29 62			実施体制 打合世内	O %2 10 1.0~1		2-													İ											A .
		工程管理能力	- 海線	O ※2 10 1.0~1 O ※2 10 1.0~1		②= ①×10×10										(7)=Z)	(7) × B)	2		/ 200	(7) × B)	2	7	200						
		CHEMOTORY	者への情 工程管理																											
	管理技術			103	100~60 D+	(2)-										D.		8,3 1	o .			(8,3 5)								
		品質管理能力	るス防止 の実施	O ⊕ 1 100 1.0~1	1.6 100~60	2)= (1)×10/10										7=2	(7) × 8:	2		/ 200	(7) × 8:	2		200				(7) × 81	2	_ / 200
	"	(神経散計以外 は加点評価)	o at	10)	100~60 T=	2:			+			+	-			D=		8.3 1	.	, 200		(8.3 %		200					(66,7 5)	_ /
		迅速性	当初計画 の変更 開発事業		1.6 40~24																									
		弾力性 調整能力	対国の施 地元任民	O %1 30 1.0~4	1.6 30~18 1.6 30~18	D= D×10∕10										Ø=2:	Ø×9	1		/ 100	(5 × 8)	1	7	100						A .
		(加点評価)	小計	100	100~60 1=	2=			1							Die		4.2 1	.			(4.2 %								4
	I M I		規能しや すい強 理解しや	O 30 1.0~I								J																		
	-	説明力 協腐性	場所しむ すい税 説明を補 う務力 円頭な業	O 30 1.0~1		2)= (1)×4/10						0	100 1.0~0.2	2 100~20	®+ ≤×6≥10	©- 2-+®	Ø×8	1		/ 100	②×8	1		(D×:	∌ 1	١.	/ 100			4
	20	プレビンテ ー ションカ	う努力 円頭な薬 程遂行へ	O %1 20 1.0~1																, 100				100			, 100			
	2.5		⊕ 8†	100	100~28 (3)=	2 :							100	100~20 S=	8:-	D:		4.2 1	6			(4.2 %			(6,3	30				
	妆 植	責任感	責任感. 動模性 責任感. 請授性。	O 100 1.0~1	1.2 100~20	2= (0×4×10					40: 30×6/10					⊕: 2)+30	(3) × (8)	2		/ 200	(3) × 30	2	, ,	200 (2)×	₽ 2		/ 200			4
	90 90	積極性 倫理觀	施税性。	10)	160~20 D=	2:		100 1.0~0	100~20	ā-	a =					(7)=		8.3 1	.	/ 200		(8.3 %	i '	200	(12.5		/ 200			
			目的の連 成位 的確など	O 40 1.0~I	1.2 40~ 8							0	40 1,0~0.2	40~ 8					\neg							-				
(1) 第	成長	異品の品質	的確なと 見まとめ ミスの有	O 30 1.0~1	1.2 30~ 6 1.2 30~ 6	②= ①×4∠10							30 1.0~0.2		S: ≤×6∕10	⊕: 2+6	⑦×30	8		/ 800	7×8	8	7	©×:	5	-	/ 500	②×30	1	_ / 100
m			- At		100~20 (3)=	(2):			+			·	30 1.0~0.2	100~20 (5)=	E=	(7)=		33.3 9	.			(33.3 %)			31,3				(33.3 %	
				第二字の評定点の加重平	均点 (注3)													24		/ 2,400		24	/	2, 60)	16	- 1-	/ 1.60	0	3	_ / 300
					業務遂行段階を対象とする)													100 5	0		1	[100 5)		-	(100	3)		+	(100 %)	
	総合評:	定点の算定	ŧ			and make				A 40 min to Mil a *			###=: · · ·	LA AND STATE	an offer the co						1							-		
					責任に起因する瑕疵が存在し	、実料図書に記さ	れた手続き	–1€い、瑕値	E1除補着しくに	3.無害賠償が実施	scれた場合、X	KIJ 手直し業 権	務を指示した場	1古の故意 (軽微な	ミスの修止を除く)															
				日総合評定点=第十日+	(2)																					-			_	
	_	_		((主任)監督員)					(佛指監	普員)						(完了検査員)								No. 4	は、評定対象外 は、加点評価項目	=				
	所	見																						* 2	は、減点評価項目	3				
(3)	必ず前	載するこ	と)																					2	t: 1.「担当技術者」t 2.各評価項目の「C	ま、それぞれ 3 人来 1 7.幸務辞定」は、少数	とする。 X第一位までとする。			
1									1							1									3.「娘=⑦の群定』	真の加重平均直」は、	少数第一位を四拾五入	し整数とする。		

(3) 設計業務「詳細設計」成績考査表

	集計一	覧表(様式第	(3号)		花技名 :														_																	
	評価	-18 G	評価	,_		(主任)監督員					総括監督員			_		完了確認検査員		評定点 (注2)			果 田 田	定			943	傑者、主任技術	*			技術者 担当技術者	(注1)		1	節壹技術	*	
	17 10	- 現日	の視点		RA HA	446B 4	· 誤整後の 評定点		NS#	発点率	作水範囲	Mai	調整後の 算定点	8	ea mar	持点範囲 特.	点 調整後の 評定点	(性2)	神宗系		並み窓	原c 原c	/ #a	評定者	EAE.	加重平均点の		*0	研究系	重み音	平均点の算出	/ %6	神宗系		物点の算出 Bc	海点
		提案力 改善力	東段素を持ちます。 東段素を関係を関係を 東段素を はまます。 東京なり 東京なり 東京なり 東京なり 東京なり 東京なり 東京なり 東京なり	0 %1 0 %1 0 %1	40 1.0~0 20 1.0~0	.6 20~12 .6 40~24 .6 20~12 .6 20~12 .6 20~12	2= ①×10/1	0										0-2	3×8		2 8.3 %	17.X 8	/ 200	Ø×8)	2		/		Ø×®	2 12.5 10	-	/ 200			171X 8:	
	*門放	業務執行技術	目的と内 容の理解 必要情報 の抵揮 検討項	0 0 0 0 ±2	20 1,0~0 20 1,0~0 20 1,0~0 20 1,0~0	2 20~ 4 2 20~ 4 2 20~ 4 2 20~ 4 6 20~12 2 20~ 4	Z= ()×2//0	, (0 160		100~0		(2)+ (3 × 3 ∕ 10	0	50 1.0~0.2	50~10	高= ⑤×5/1	3/n 20+40+49	2×®		4		/ 400	Ø×80	4		,	400	O×8	4	-	/ 400				
	n h	施工時へ 22計 22計 22計 22計 22計 22計 22計 22計 22計 22	地本に関する一般 ・ は工に関する一般 ・ は工条件 等の形型 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		40 1.0~(100~28 (j=	2=		100		100~0 \$=	<u>&</u> =				103-20 5=	8=	<u>v</u> =		(16.7 %				(16.7	0				25.0 %						
		まする。 イ、ロの いずれか を選択す る。) コスト把雇能 (設計業務を全	4 81	4	30 1.0~0 30 1.0~0 100 1.0~0	2 30~ 6 100~20 (f)= 2 100~20	2= ①×10/1 ②- ②- ②×10/1											()=2 ()=2 ()=2	2×8 2×8	(1 4.2 %	-	/ 100	7×8 7×8	1 4.2	TO .		100	①×®	6.3 %		/ 100				
プロセス評価		「政打乗物をX」 に辞定する。 工程管理能:	東斯平 原、工程 実務体制 打合セ内 変の理		10 1,0~0	100~20 (0~ 6 30~18 6 10~ 6 6 10~ 6	2- 0×10/1											Ø-	J)×®	(4.2 %		/ 200	(7)×®	2	10		200		6,3 %	-	, 10				
	管理技術力	品質管理能: (卵細胞計 以 は加点 評価)	工程管理 小 計		40 1.0~0 100 1.0~0	100~60 (D=	2= () × 10/1	0										Ø= 0=2	71×81		8,3 % 2		/ 200	(7)×-8)	2		/	200					O×8	2	- /	200
		迅速性 別力性 調整能力 (加点評価)	当初計画 の変更 関連事業 者面の説 地元任民	0 #1 0 #1 0 #1	100 40 1.0~0 30 1.0~0 30 1.0~0	.6 30~18	2= U×10/1	•										Q= Q=2	2×8		1 4.2 %		/ 100	7×®	1 4.2		,	100						(66.7 %)		
	日曜年日本一会用る	説明カ 協相性 プレセ゚ンテーション	理解しや すい記 運解しや すい記 説明を持 内所な薬 水水 計	0 0	30 1,0~0 20 1,0~0	2 30~ 6 2 30~ 6 2 20~ 4 6 20~ 12 100~28 (0=	()×4/10	,							100 1.0~0.2	100-20	\$= \$) × 6 / 1	7- 2)+8-	⊅×®		1 42 %		/ 100	7×8	1 4.2		,	100	D×8	1 6.3 %		/ 100				
	力 植 密 勢	責任感 積極性 倫理觀	責任額、 動板性 責任額。 搭板性。 小 計 目的の連 ら確 で		100 1.0~0	.2 100~20 100~20 (Da	2= ①×4/10		0 160	1.0~0.2		<u>©-</u>	@:: © × 6 / 10		40 1.0~0.2			7- 2+3 7-	2)×10	í	2 63 %		/ 200	(7)×18)	2	6	,	200	O×8	2 12.5 10	-	/ 200				
(株 東 評 (株	成	果品の品質	的確なと 見まとめ ミスの有 無		30 1.0~0	.2 30~ 6 .2 30~ 6 100~20 (0=	2: ①×4/N							0	30 1.0~0.2 30 1.0~0.2		§- ⊕×6/1 ©=	0 2+8 2+8	2×8	(8 33.3 % 24		/ 900	7×8	8 (33.3 24	10	/	800 2, 400	D×8	5 31.3 %	<u> </u>	/ 500	Ø×8	33.3 %	- /	300
					定点の加重平	均点 (注3) 表務遂行段階を対象	b of Z \													(100 %				(100	9			(100 %		_		(100 %)	-	\dashv
	総合評	定点の算	定				が存在し、契約図書に	記された	手続きに従い	、 瑕疵修補	有若しくは損害 の	音儀が実施され	た場合、又は	(手直し業務:	を指示した場合	の減点 (軽徴が	よミスの修正を除く)																-			\dashv
					点=⑩+①+																									_				_		
G	所必ず言	見記載する		((主任)							(総招監督員)							(完了検査)	D										※2 は、減 2:1.「但	定対象外 点許便項目 点許便項目	Fh3.k∉r≿:	る。				
																		1										l	3. fog	■項目の「⑦葉機器) 	F均直」は、少数	第一位を四地五人	し整数とする。			

様式第4号

○○第 ○○○ 号

平成 年 月

H

称号又は名称・代表者氏名 様

 \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc

印

委託業務成績評定通知書

貴社が受注した下記の委託業務について、島根県設計・測量・調査等業務成績評定 要領に基づき評定した結果を通知します。

なお、評定の結果に疑問があるときは、当職に対してその疑問の旨を付して、この 通知を受けた日から 14 日 (休日を含む)以内に書面により、説明を求めることができます。

疑問の旨に対する説明は、書面により郵送いたします。

また、説明を求める場合の書面の送付先及び手続き等についての問い合わせ先は下 記のとおりです。

討

		記
1.	業務名	
2.	履行期間	平成〇年〇月〇日 ~ 平成〇年〇月〇日
3.	完了検査年月日	平成〇年〇月〇日
4.	評定点	別表のとおり
5.	送付先	(当該委託業務を所掌するのが本庁課長(室長)の場合
		〒○○○─○○○
		○○○○課長(室長)あて
		(当該委託業務を所掌するのが地方機関の長の場合)
		₹000-0000
		〇〇〇〇〇所長あて
6.	手続き等の(当該委託業務を所掌するのが本庁課長(室長)の場合)
	問い合わせ先	○○○部○○○課 ○○○○グループ

☎ ○○○ ○○○○(当該委託業務を所掌するのが地方機関の長の場合)

○○○所等 業務又は総務グループ

2 000 00 0000

項目別評定点

業務名 :

-					未物口 .						
						技術者評定					
評価項目	計	平価の視点	業務評算 (評定点/清		管理技術者、 技術者 (注 (評定点/洁	È1)	担当技術 (評定点/清	i者 请点)	照査技術者 (評定点/満点) 一 一 ー 点/ 点	者 j点)	
	提案力、改善力		点/	点	点/	点	点/	点	_		
	業務執行技術力		点/	点	点/	点	点/	点	_		
専門技術力	施工時への配	概略設計 予備設計	点/	点	点/	点	点/	点	_		
	慮 (注2)	詳細設計	点/	点	点/	点	点/	点	_		
	コスト把握能力 (注2)		点/	点	点/	点	点/	点	_		
	工程管理能力		点/	点	点/	点	1		l		
管理技術力	品質管理能力		点/	点	点/	点	_		点/	点	
	迅速性	、弾力性、調整 能力	点/	点	点/	点	_		_		
コミュニケーション力	説明力、	、プレゼンテーション力 協調性	点/	点	点/	点	点/	点	ı		
取組姿勢	責任感、	積極性、倫理観	点/	点	点/	点	点/	点	ı		
月	成果品の品質			点	点/	点	点/	点	点/	点	
評定点の加重平均点											
事故等による減点											
瑕疵修補又は損害賠償による減点											
総合	総合評定点 (注3)			点 /100点		点 /100点		点 /100点		点 /100点	

- 注) 1. 地質調査、測量作業及び調査業務においては、主任技術者が該当する。
 - 2. 「施工時への配慮」及び「コスト把握能力」は設計業務のみ評定の対象とする。
 - 3. 総合評定点は、評価の視点毎の重み付けを考慮した加重平均点である。

様式第5号の2

項目別評定点

業務名:

	-				
評価項目	評価	の視点	業務評定 (評定点/満点)	備	考
	提案力改善力		点/ 点		
	業務執行技術力		点/ 点		
専門技術力	施工時へ の配慮 (注2)	概略設計 予備設計	点/ 点		
		詳細設計	点/ 点		
	コスト把握能力 (注2)		点/ 点		
	工程管理能力		点/ 点		
管理技術力	迅速性 弾力性 調整能力 説明力		点/ 点		
			点/ 点		
コミュニケーション力			点/ 点		
取組姿勢	積	任 感 極 性 理 観	点/ 点		
成果	品の品	質	点/ 点		
知字よの加重で切よ		均占	点/ 点		
評定点の加重平均点			点		
事故等による減点			点		
瑕疵修補、損害賠償又は 手直し業務指示による減点			点		
総合評定点= + + (注3)			点/ 100 点		
瑕疵修補又は損害賠償による 総合評定点の変更					
変更後の総合評定点					
24 X 4 11LE	CADE VOID	コルール ファッ かり	大学カーヤル・プローナバサダンがたい。		

注)1.地質調査、測量作業及び調査業務においては、主任技術者が該当する。 2.「施工時への配慮」及び「コスト把握能力」は、設計業務のみ評定の対象とする。 3.総合評定点は、評価の視点毎の重み付けを考慮した加重平均点である。